第２回
千代田東部小学校

私たちの学校自慢

この連載は、市内の小中学校を訪ね、他の学校には負けないという「学校自慢」を子どもたちに紹介してもらうコーナーです。

２回目は、千代田東部小学校です。運営集会委員会の堀内菜々子さん、園田夕夏さん、富﨑有香さん、家永孝紀さん、西村洋祐さんの５人に話を聞きました。

この学校の自慢は何ですか？

堀内さん「道徳が身についているところです」

園田さん「学校目標になっている湖人先生の言葉を頑張っていることです」

富﨑さん「アルミ缶回収などのボランティア活動をしているところです」

家永さん「毎日掃除を静かに行っているところです」

西村さん「人の目につきにくいトイレのスリッパも並べるところです」

色々と自慢できる事柄があるようですが、５人の意見から見えてくる言葉があります。「道徳」「下村湖人」「ボランティア」です。

千代田東部小学校は、「次郎物語」で有名な下村湖人が卒業した学校であり、学校目標も湖人の「渾身勉学」「白鳥蘆花に入る」という2つの言葉。それ以外にも、湖人にちなんだ行事、授業が行われています。

なかでも、５月に行われている「次郎とのふれあい学習」では、６年生が主体となり、次郎物語に登場する場面の劇を披露したり、クイズを出したりした後、下村湖人生家や神代小学校跡など、ゆかりの場所を巡り、下級生にもわかるように説明しています。

このように、入学した時には、何も知らなくても、６年生になる頃には、下級生に説明できるくらい、湖人について詳しくなっている訳です。

さて、これが道徳やボランティアとどう関係してくるのか？それは、湖人が残した言葉で学校目標にもなっている「白鳥蘆花に入る」です。

これは、禅語にある「白馬蘆花に入る」を元に、湖人が生まれ育った筑後川の風景を想いながら、作った言葉です。白いアシの花の中に白鳥が入ると、姿が見えなくなるが、羽ばたきは花を揺らし波紋となって広がる。つまり、本当に良い行いをやっている人は、名を残さなくとも、良いことを波紋のように広げて、周囲を良くしていくという考えです。

子どもたちの説明でも「良い行いをすると千代田東部小学校全体が良くなることです」と下級生に伝えていました。

学校を訪ねると、トイレのスリッパや目につきにくい掃除道具までもきちんと整頓されています。これも湖人の言葉を理解し、実行しているから身につき、学校全体へと広がっているのでしょう。

千代田東部小学校の自慢は「下村湖人の教え」と言えるでしょう。

校長先生から一言

学校のテーマの「伝えよう自分の思い、分かり合おう友だちの気持ち」の通りの子どもたちになって下さい。

千代田東部小学校　校長　島　英彰